

気候システム研究集会（Climate System Research Assembly） 設立趣旨

気候システム研究集会（Climate System Research Assembly）は、主として九州地区の大学において大気や海洋を研究している学生が、互いに研究発表し、草の根交流を深めることによって、研究分野の視野を多角的に広げ、また研究のモチベーションを上げて、活発な意見交換を進めることを目指しています。

全国的な学会や夏の学校などで他大学の学生と交流する機会がありますが、その多くは遠隔地での開催で毎回の参加は容易ではなく、交流する時間も限られているため、なかなか草の根交流が難しい状況です。しかし目を足元に向けてみれば、九州地区では各大学で海洋や大気を学んでいる多くの学生が居ます。

所属する大学が違うというだけで、近傍に居る学生の皆さんが交流しにくいという状況は残念なことです。様々な大学で種々の研究が行われていることを学生間交流によって知ることが出来れば、学生の皆さんの研究のモチベーションも上がるでしょうし、よく似た目標に向かって歩いている仲間を得て勇気づけられる機会も多々あるかと思えます。一緒に海洋・気象観測をする機会もあるかもしれません。また、気象学、大気物理学、海洋物理学等の分野は地球の気候システムを理解する上で必要不可欠な各領域であり、異なる研究分野を理解することは、気候システムを理解するのみならず自分の研究がどのように位置づけられるのかを理解することにも繋がります。

ローカルな側面に注目すると、九州地方は黒潮と対馬海流に挟まれ、沿岸海域では多様な生態系が形成されています。各々の暖流上では活発な大気海洋相互作用が生じており、大気と海洋の互いの変動に影響を与えています。また、梅雨末期の集中豪雨や台風の災害を被ることに加えて、大陸からの越境汚染に大きな影響を受ける地域でもあります。これらの気象・海象災害や海洋・大気汚染の問題が、九州地区に住んでいる私達にとって重要な研究対象となっているのは周知のとおりです。

以上の趣旨から、気候システム研究集会を2013年度に立ち上げることにしました。毎年1回程度の開催で、九州地区各大学が当番となって一年交代していきますので、毎年異なる地域で研究集会を開催することになります。本研究集会の世話人は下記の通りです。世話人は、本研究集会のコーディネーターや研究集会での学生の発表に対するコメントやサジェスションを与えるのが主な役割ですが、あくまでも研究集会の主体は学生の皆さんです。

当面、九州地区での草の根交流（研究室レベルの InterUniversity@Kyushu）から始めていきますが、もし活動が軌道に乗れば、九州地区以外（例えば中国や四国地区）の大学との交流も視野に入れていきたいと考えています。

まずは第1回として『気候システム研究集会 2013』を9月28～29日に長崎大学島原共同研修センターで開催する予定です。詳細については各大学世話人の教員にお尋ねください。

学生の皆さんの積極的な参加をよろしくお願いします。

世話人一同

*気候システム研究集会世話人（あいうえお順）

川村隆一（九州大学）
河本和明（長崎大学）
富田智彦（熊本大学）
中村啓彦（鹿児島大学）
万田敦昌（長崎大学）
山本 勝（九州大学）